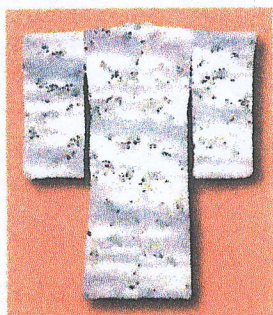


豊浜太鼓打ち着物展

愛知県南知多町豊浜

鯛まつり 太鼓打ち衣装



明治38年の衣装



豊浜まちづくり会
豊浜太鼓打ち着物保存会
南知多町文化遺産保存活用実行委員会

着物の作成

昭和50年までの着物は、いずれも京都で製作されたものです。着物の染めは手書き友禅、刺繍は、手刺繍、かがり刺繍、ミシン刺繍などで、京都の刺繍通歴が見られます。昭和20年代の着物は生糸の質がよく、染色、手刺繍ともに色鮮やかに表現されています。また、昭和25年から39年までのかがり刺繍は、しっかりと染めをしたうえで縫取り部分を金糸、銀糸でかがってあります。

現存する最古の太鼓打ち着物は、明治38年(1905年)に作られた江戸ちりめん(明治時代の型友禅)で、着物で残っていること自体貴重なものです。終戦の年である昭和20年のものもあり奇跡としか思えません。また、手書き友禅で素晴らしい出来のもの(昭和14年)や最高の技術で染められたもの(昭和30年)などもあります。

このように太鼓打ち着物は、専門家からも高く評価されています。



昭和20年「龍虎」
水掛画のような装飾です。



昭和30年「ライオン」
革の口抜きの染めは、最高の技術と評価されています。

このパンフレットは
文化庁
「文化遺産を活かした
地域活性化事業補助金」
を活用して作成しました。
ご来場者にお渡しします。

とき 平成27年11月21日(土)
午前10時～午後5時
11月22日(日)
午前10時～午後3時

ところ 南知多町総合体育館
メインアリーナ

展示品 太鼓打ち着物 175枚
明治38年～昭和62年使用

入場料 無料

主催 豊浜まちづくり会
共催 豊浜太鼓打ち着物保存会
後援 南知多町 南知多町教育委員会
南知多町文化協会 豊浜地区区長会